

国土審議会 第11回北海道開発分科会 議事概要

1. 日 時:平成 20 年 5 月 8 日(木)12:15～13:30
2. 場 所:中央合同庁舎第3号館 11階特別会議室
3. 出席者:[委員]丹保分科会長、相原委員、飯島委員、家田委員、石崎委員、井須委員、上田委員、櫻庭委員、生源寺委員、高橋委員(代理出席:山本北海道副知事)、橋本委員、南山委員、吉川委員
[国土交通省]冬柴国土交通大臣、山本大臣政務官、品川北海道局長 他

4. 議事次第

- (1)開会
- (2)委員紹介
- (3)議事
新たな北海道総合開発計画(案)について
- (4)閉会

5. 議事の内容

- (1) 新たな北海道総合開発計画(案)について、委員から意見を頂いた後、議決がなされた。

【頂いた主な意見】

- ・ 北海道新幹線について、「新函館・札幌間」と札幌延伸が明記されたことを大きく評価したい。今後、この計画を裏打ちとして、まちづくり等の施策をしっかりと進めていきたい。

北海道全体の中での札幌市の位置づけも明確にされており、札幌市の今後の政策の基礎としたい。札幌市への一極集中について、札幌市の集積は北海道最大の財産であり、これを北海道のためにどう活かすのか、他の市町村とも議論をして考えなければならない。

札幌市では、6月に「環境首都・札幌」宣言を予定しているなど、環境問題についても先導的な役割を果たしていきたいと考えているところであり、新たな計画にも環境に対する取組が明記されていることを評価したい。

- ・ 政府・与党における新幹線の議論は現在先送りとなっているが、新幹線は北海道の発展にとって重要な要素であり、この新たな計画をベースに引き続き努力してまいりたい。

北海道の現状は厳しいという認識を持つことが重要。しかし、一方で北海道の持つポテンシャルは大きく、近い未来に北海道の良質な一次産品、水、環境は大変な価値を生むであろう。こうした点を踏まえて、北海道の将来を考える必要がある。

新たな計画では、ハード施策のみならずソフト施策も盛り込まれ、また、国土交通省に限らない幅広い分野の取組が記載されている。計画の推進にあたっては、関係機関と広く連携をとって進めてもらいたい。

現在、地方分権について検討が進められており、地方支分部局についても議論の対象となっている。財政が非常に厳しい中で、今の官僚機構が維持できるのか、今後大きな問題となる。その際には、北海道のことを考えた上で、あるべき行政体制を検討する必要がある。計画期間の途中で行政体制が変わることも考えられ、5年で計

画の見直しを行うことは理にかなっている。

- ・ 北海道新幹線については、北海道開発法に基づく北海道の意見としても申し上げた部分であり、「新函館・札幌間」が明記されたことを評価したい。
北海道の総合計画が4月にスタートした。この総合計画と国の新たな計画がうまく連携をとり、実効性を高めるよう努めたい。
北海道は、それぞれの地域が課題を抱えている。国や道、市町村、住民など地域の関係者が議論できる場として、既存の会議を発展させた地域づくり連携会議を設置し、議論を深めていきたい。
新たな計画のフォローアップに際しても、北海道として議論に参加させてもらいたい。
新たな計画の早期の閣議決定と、施策の着実な実行をお願いする。
- ・ この計画は、北海道が国を導くための基幹となるものであり、しっかりとバックアップしていきたい。
- ・ この計画に沿って、具体的に施策が実施されるよう、努力したい。
北海道は、インフラ整備の遅れ、基幹産業の低迷、低い人口密度など、厳しい状況にある。道州制に向けた議論が進んでいるが、北海道については、すぐに道州制に移行するだけの体力があるのか考慮が必要。道路や港湾など、まだ整備は不十分であり、北海道局の果たす役割は依然として重要である。
- ・ 北海道の環境をいかに守り育てるかが重要。食やエネルギーについて、アジアはもとより世界から注目される北海道になるべき。
北海道が、他地域の人にとって「住んでみたいところ」から「本当に住みたいところ」になるために、ハード、ソフト両面から取り組む必要がある。
計画は素晴らしいものができたが、実行するには財源が必要であり、そのために私としてもしっかりとサポートしたい。
- ・ 長時間の審議により、北海道のポテンシャルや必要な取り組みが的確に入ったものになっている。
短時間でも情勢は変化している。例えば、現在の原油高は北海道に大きな影響があるし、道路特定財源の問題もある。付記の部分に、政策評価の推進や状況に応じた計画の見直しについて記載があるが、時代の変化に対応して随時計画を見直すことが一番重要である。計画が着実に推進されているかどうかだけではなく、状況の変化に対して現在の計画が適切かどうかのチェックが必要。
修正できるならば、「モビリティ」について、もともとは人とモノ双方を対象にした言葉であり、この計画では専ら人について使っているというように書くといいのではないか。「フットパス」については、注釈どおりの意味であれば「遊歩道」でもいいのではないか。また「グローバルな競争力」という言葉と「国際競争力」という言葉が併存しているので、意味が同じなら揃えるといいのではないか。
- ・ 先般の分科会で、その時点での素案を読んで、感動を覚えたと申し上げたことがある。難しい時期にこうした計画がつけられたことを改めて評価したい。
供給不足によって食料の値段が世界的に上昇している中、北海道の農産物はこれからまだまだ伸びる。水も世界的に不足しており、北海道は将来、水を輸出するようになるのではないかと考えている。新たな計画は、こうした北海道が世界に貢献す

るという視点を踏まえたものとなっている。

- ・ 計画の内容について特に申し上げることはない。着実な実行を強くお願いしたい。
- ・ 計画ができて、具体的な施策に反映されないと意味がない。しっかりと反映し、北海道の発展に繋がるよう、私も取り組んでまいりたい。
- ・ 様々な議論の成果がまとめられ、いい計画ができたと思う。
中長期的に、世界の食料需給は逼迫する。既に、我が国やアジアにとって北海道の重要性が認められつつある。生きる力の源泉が北海道にあるとあっていい。
以前、取材で東京大学の中で一番好きな場所を尋ねられた際に、富良野の演習林を挙げたことがあるが、北海道は生きる喜びを実感できる場所も多い。
- ・ 計画の内容について改めて申し上げることはない。分科会、計画部会、起草委員会の皆さんの、今後の北海道をどうするかという思いが形となって現れた計画となった。
計画は、具体的に実施されて意味がある。北海道及び国の発展にとって重要なものについて、短期的な視点だけでなく長期的な視点で考えてもらいたい。また、関係自治体の意見も踏まえ、実施していただきたい。

【議決】

- ・ 分科会として、この案のとおり答申することが妥当であるとしてよろしいか。
異議無し
- ・ 分科会として新たな計画(案)を議決したことで、計画部会はその役目を終えたことから、廃止することとしてよろしいか。
異議無し

(2) 答申

丹保分科会長から冬柴大臣へ、国土審議会答申(「地球環境時代を先導する新たな北海道総合開発計画(案)」)の手交を行った。

以上

(速報のため、事後修正の可能性があります。)